三条界隈

東海道の終着点「三条大橋」から西に京都の中心部へ向かう三条界隈は、人や物が行き交う繁華街として栄えてきました。平安時代は、このあたりに有力な貴族邸が多く、発掘調査地ではプレート等で遺跡の説明がされています。また、秀吉の都市改造で寺町に移された寺院にも、幾多の歴史や伝承を見ることができます。経済活動が盛んだった三条通沿いには、伝統的な建造物も数多く残されていますが、それ以前の桃山時代から江戸時代にかけては、「せと物や町」のあった土の中から多くの意匠的に優れた茶陶類が発見されています。近年、新しい京文化となる若者の町に変わりつつある三条界隈ですが、そこに佇む近代建造物や遺跡、寺院の歴史をたどり、この界隈を楽しむ散策コースとしています。

室町時代後期から約400年続く、京釜師・大西家歴代の茶の湯鉄釜や茶道具類が展示される美術館です。明治時代に大西清右衛門は、三千家(さんせんけ)に出入りする千家十職(じっしょく)の一つに指定されています。

大西清右衛門美術館

旧龍池小学校を改築した漫画の博物館です。国内外の漫画に関する資料、約30万点を収蔵しており、漫画の収集・保存・調査研究に取り組んでいます。旧講堂棟及び校舎棟は国の登録有形文化財です。

京都国際マンガミュージアム

京都府京都文化博物館別館（旧日本銀行京都支店）

京都の歴史と文化を幅広く紹介する総合文化博物館として1988年に開館しました。別館は建築家・辰野金吾設計による旧日本銀行京都支店の建物で、重要文化財に指定されています。

京都府京都文化博物館

茶道の源流「わび茶」

室町時代後期から安土桃山時代にかけて、それまでの唐物を使った豪華な茶の湯に代わる新たな様式の茶の湯「わび茶」が登場します。わび茶の祖とされる村田珠光(むらたじゅこう)は「心の文」という文章の中で、はじめて茶の湯が人間の成長をもたらす「道」であると説きました。武野紹鷗(たけのじょうおう)は珠光が理想とした四畳半の茶室を基本とする「草庵茶の湯」を受け継ぎ、わび茶を確立しました。若くから紹鷗の門下で茶の湯を学んだ千利休は、秀吉に仕えた晩年に独創性を発揮し、禅の精神を取り入れた簡素清浄な茶の湯を生み出してわび茶を大成させました。利休七哲のひとり古田織部は大胆かつ自由な気風を好み、茶室や茶道具において「織部好み」と呼ばれる流行をもたらしました。

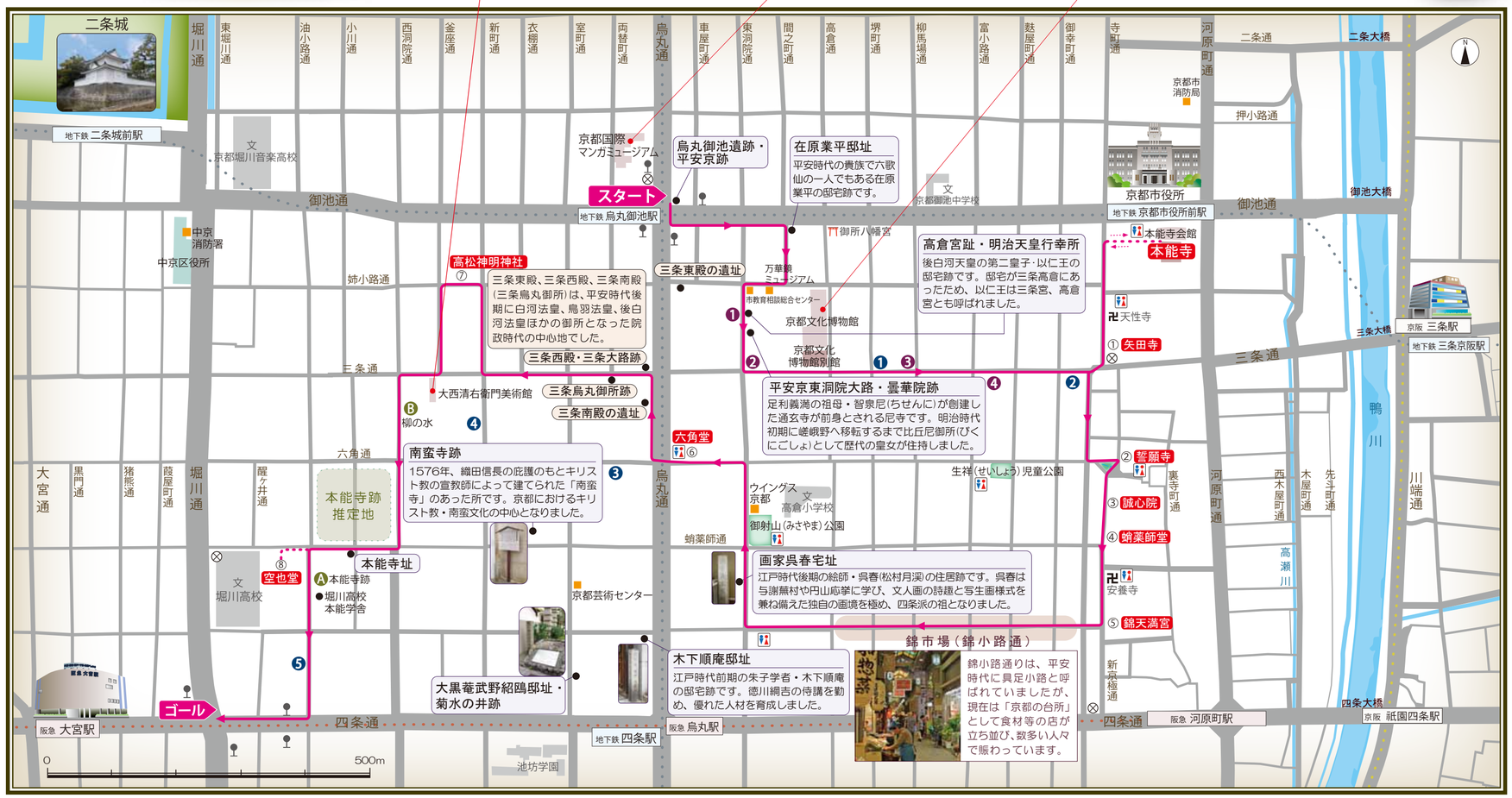
三条「せと物や町」跡から出土した織部焼

本能寺

1415年に僧日隆によって建立された法華宗本門流の大本山です。足利氏の保護を受けて洛中法華宗二十一本山の一寺として栄え、京都が題目の巷と呼ばれた室町時代を通じて法華信仰の拠点となりました。1582年に起こった本能寺の変により焼失しますが、豊臣秀吉の都市改造で現在地に移転し、江戸時代には92の末寺を数える大寺院となりました。本堂裏手には織田信長の供養塔があります。

本能寺 ～ 五度の焼失と再建

1415年、僧日隆が油小路高辻に創建した本応寺は、3年後に妙本寺の宗徒によって破却され、後に六角大宮に建立、寺号を本能寺と改めました。天文法華の乱(1536)で焼失し、1545年に僧日承が蛸薬師小川付近に再建しましたが、本能寺の変(1582)により焼失してしまいます。その9年後に秀吉の都市改造で現在地に移転しますが、天明の大火(1788)、禁門の変(1864)でことごとく堂宇を失いました。このように度重なる焼き討ちに遭ったため、火が去るという意味をこめ「能」の二つのヒを「去」の字に変えた字形が使われるようになったといわれています。



Ⓐ本能寺跡

織田信長が上洛時に宿所とした寺院で、本能寺の変で明智光秀の襲撃を受け、最期を遂げた場所です。発掘調査や絵図などにより、この碑の北側一帯(の地域)が本能寺跡であることが明らかになっています。

Ⓑ柳の水

ここは、平安時代末期には崇徳院(1119～64)の御所があった地で、清泉があり千利休も茶の湯に用いたとされる名水で、井戸のそばに日除けの柳を植えたためこの名がついたと伝えられています。

洋館・町家建築色々

❶平楽寺書店（国登録有形文化財）

❶分銅屋

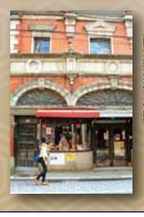
❷中京郵便局（市登録有形文化財）

❷富田歯科医院

❸日本生命京都三条ビル旧棟（国登録有形文化財）

❸伴家住宅（市登録有形文化財）

❹川崎家住宅（紫織庵）（市指定有形文化財）



❹家邊徳（やべとく）時計店（国登録有形文化財）

❺野口家住宅（市指定有形文化財）

①矢田寺

寺伝では、平安時代初期に奈良の金剛山寺の別院として五条坊門(下京区)に創建され、1579年に現在地に移されたといいます。本堂前の梵鐘は六道珍皇寺のお盆の「迎え鐘」に対し、8月16日の精霊送りの日に鐘を撞く「送り鐘」と呼ばれています。

送り鐘

②誓願寺

飛鳥時代に天智天皇の勅願で奈良に創建されました。鎌倉時代に一条通小川に移転、1591年秀吉の都市改造で現在地に移りました。第55世住職の策伝は落語の祖と称され、芸道上達を願う芸人が扇子を奉納する「扇塚」があります。

扇塚

③誠心院

寺名は初代の住職とされる平安時代中期の歌人・和泉式部の法名に因みます。墓地には鎌倉時代後期のものとみられる大きな宝篋印塔があり、和泉式部の墓所と伝えられています。

和泉式部の宝篋印塔

④蛸薬師堂

正式名を浄瑠璃山永福寺と称し、本尊の石造薬師如来は「蛸薬師」の俗称で信仰されています。鎌倉時代、この寺の僧が病気の母親に好物の蛸を買い、生臭を咎められた時、薬師如来の加護で蛸が経典に変わり霊光を発した、という逸話が蛸薬師の由来になったとされています。

⑤錦天満宮

平安時代中期に創建された菅原道真を祀る鎮守社で、学業成就・商売繁盛に御利益があるといわれています。ビルの壁をつきぬけた鳥居や境内に涌く「錦の水」が知られています。

錦の水

ビルをつきぬく鳥居

⑥六角堂

正式名を紫雲山頂法寺と称する天台宗の寺院です。本堂が六角形であることから六角堂と呼ばれています。寺伝によれば平安遷都以前の聖徳太子による創建と伝えられ、華道の家元「池坊流」発祥の地とされています。京都の中心といわれる「へそ石」があります。

へそ石

⑦高松神明神社

平安時代初期に醍醐天皇の皇子・源高明(たかあきら)の邸宅として高松殿が造営された際に、伊勢神宮から天照大神を勧請し、鎮守社として祀られました。

鳥居と社殿

⑧空也堂

正式名を紫雲山極楽院光勝寺と称する天台宗の寺院です。平安時代中期の僧で、仏教を庶民階層へ布教した空也の開創とされています。本尊を空也とすることから空也堂と呼ばれています。

空也堂の山門

≪ マップ目印解説 ≫

…おすすめルート　…バス停　…トイレ　…警察　…信号機　…寺院　…神社　…石碑　…洋館建築　…町家建築

Kyoto City Archaeological Research Institute

25

三条界隈

～文化財と遺跡を歩く～

京都歴史散策マップ

発行　京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

三条界隈周辺の発掘調査

三条通は平安時代から東西の主要路をなした三条大路であり、平安時代には大路沿いに貴族の邸宅や御所跡などが営まれていました。周辺の発掘調査では東洞院大路の側溝や中世の尼寺・曇華院（どんげいん）の跡などが発見されています。また、三条東殿跡では井戸跡や池跡、さらに江戸時代の豪商・後藤庄三郎（しょうざぶろう）の邸宅跡なども発見されています。天正十八年（1590）豊臣秀吉が鴨川に三条大橋を架橋し、東海道の起点（終点）となると、洛中の三条通沿いには店舗が軒を連ね、特に御幸町通から柳馬場通間は「せと物や町」と称された時期もありました。発掘調査や立会調査では桃山時代末から江戸時代初めまでの茶陶類が多量に発見され、「せと物や町」の存在が明らかにされています。小川通の南側にはかつて本能寺があり、創建以来、京都の町中を転々と移動します。現在の本能寺は豊臣秀吉の命令により天正十九年（1591）に寺町御池に移転したものです。旧本能寺の発掘調査では創建時の堀跡や建物跡、焼けた瓦や壁土なども見つかっています。

＊表紙の絵図は三条通の「せと物や」を描いた洛中洛外図（一部改編）

❶ 曇華院跡(平安京左京三条四坊四町跡)

室町時代には尼寺である「曇華院」がありました。2001年に発掘調査が行われ、室町時代の井戸や土坑から焼土や石と共に多量の敷甎（しきせん）が出土しました。敷甎とは煉瓦の様なもので、仏殿の床に貼られていたと考えられています。また、市内では数例の出土しか知られていない中国からの輸入陶器である華南三彩盤も出土しています。

発掘調査の様子

出土した敷甎

出土した華南三彩盤

❷ 平安京左京三条三坊十三町跡

平安時代には藤原氏の邸宅があったところを白河法皇に造進し、三条東殿が営まれました。平治の乱が勃発した場所ともいわれています。その後、江戸時代初期には金座を主催した後藤庄三郎が伏見から移り住んだところです。1991年から1992年にかけて発掘調査が行われ、平安時代の井戸跡や室町時代の庭園の池跡が見つかりました。また、後藤家にかかわる建物を発見し、茶碗や向付などの茶陶も出土しました。

発掘調査の様子

井戸跡（平安時代）

庭園と池跡（室町時代）

室町時代の庭園の石組

池跡から出土した中国金代の陶枕

池跡から出土した南宋の青磁水指

後藤家邸宅内の建物跡

後藤家邸宅跡から出土した茶陶類

❸～❻ 三条「せと物や町」

江戸時代初期に製作された『洛中洛外図屏風』（勝興寺本）には、三条通の寺町から西に焼物屋の店舗が描かれており、また「せと物や町」と記載された京絵図があります。1988年に麩屋町東入の弁慶石町の発掘調査（6）で、桃山時代から江戸時代初期の茶陶類が多量に出土しました。その後、1989年の中之町（4）・1995年の下白山町（5）・2006年の福長町（3）の各立会調査により、三条通に沿った御幸町通から柳馬場通までの約200mの範囲から茶陶類が多量に出土することが明らかになりました。2012年には中之町出土の茶陶類790点が市有形文化財に指定されています。

福長町の調査の様子

茶陶類の出土状況

❸

福長町出土の茶陶類

❹

中之町出土の茶陶類

❺

下白山町出土の茶陶類

❻

弁慶石町出土の茶陶類

京都市考古資料館

大正３年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245　FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間　9:00～17:00（入館は16:30まで）

JR京都駅より地下鉄烏丸線　今出川駅下車徒歩15分
市バス 201・203・59系統　今出川大宮下車すぐ

❼ 平安京左京四条四坊二町跡

1993年に高倉小学校新築工事に伴い発掘調査が行われ、平安時代後期の井戸跡や区画溝、また室町時代の建物跡や井戸跡、江戸時代の屋敷跡等が発見されました。また、調査地の断面土層の剥ぎ取りが行われ、断面土層のパネルが校舎内の玄関に展示されています。

発掘調査の様子

建物の基礎とみられる石敷き(室町時代)

石組井戸跡(室町時代)

断面土層

❽ 烏丸綾小路遺跡(平安京左京五条三坊九町跡)

烏丸綾小路遺跡は1980年に地下鉄烏丸線建設に伴う発掘調査で発見された四条烏丸周辺から南西に広がる弥生時代の集落跡です。2006年に四条烏丸の交差点北西角で発掘調査が行われ、弥生時代中期から後期（約2000年前）の竪穴住居跡や方形周溝墓と呼ばれる墓の跡が見つかりました。また弥生土器も多く出土し、集落でのくらしぶりの一端が明らかになりました。

方形周溝墓(弥生時代)

竪穴住居跡(弥生時代)

❾～⓫ 本能寺跡(平安京左京四条二坊十五町跡)

本能寺は応永二十二年（1415）に日隆が油小路高辻に創建した日蓮宗の寺院で、当初は「本応寺」と称されていました。永享五年(1433) に六角大宮に移転して本能寺と改められ、天文法華の乱(1536) などで焼かれ再び蛸薬師小川に移転し、天正十年 (1582) に明智光秀の謀反（本能寺の変）により焼亡後、豊臣秀吉の都市計画に従い、天正十九年 (1591) に現在の位置 (寺町御池付近) へと移されました。2002 年に発掘調査が行われ、防御用の設備である下京惣構（そうかま）えといわれる堀跡が見つかりました。2007 年の発掘調査では、内堀や建物の一部等が見つかりました。内堀は東の調査で見つかり、西肩には石垣が積まれていました。堀の中からは「能」の異体字である「𠮷」銘をもつ軒丸瓦が出土しました。西側の調査では建物の柱を据えるために、拳大の石を詰めた浅い穴が並んでいました。出土した遺物の中には焼けた瓦片・壁土などが見つかり、本能寺の変の一端を物語っています。

❾

下京惣構えの堀跡

❿

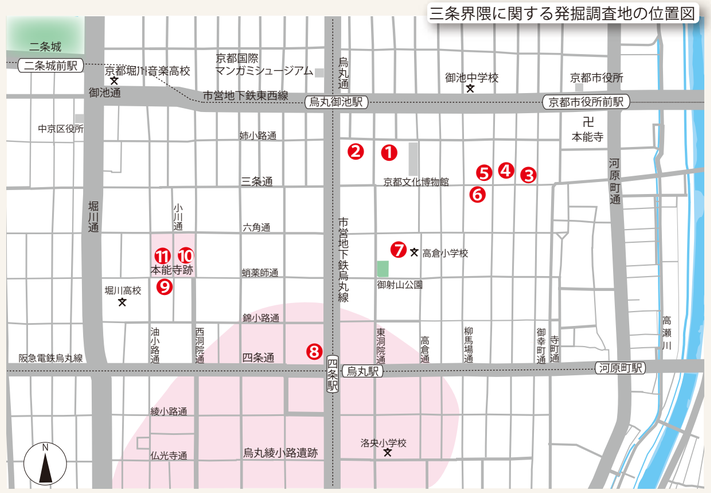
内堀の石垣跡
「𠮷」銘軒丸瓦
（写真提供　関西文化財調査会）

⓫

礎石の据え付け穴

「本能寺の変」で焼けた壁土(左)と瓦（右）

三条界隈に関する発掘調査地の位置図



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所